



日本共産党文京区議会議員
まんだち幹夫 通信 週刊
 2011年8月12日号 No.204

'みなさんをいつもまんやかに、

区議団控室：5803-1317 (直通)
 萬立幹夫事務所：文京区小石川2-23-7
 ・fax 3868-8355
 メール：mandachi@jcp-bunkyojugidan.gr.jp

《このニュースは区議団ホームページ <http://www.jcp-bunkyojugidan.gr.jp/>でもご覧いただけます》

大震災5か月、石巻での救援ボランティアに参加しました

町もそこでの暮らしも、一瞬にして全壊。「東京から来たのか。この状況をよく見て行ってくれ。」

漁港には設市場復興の兆しも

日程が整い、東日本大震災の救援ボランティアに参加できました。30箱余りのみなさんから預かった支援物資を車に積み込み、8人でスケジュールは1泊2日。

初日、昼過ぎに着いた石巻市でまず感じたのは、街中の瓦礫は撤去されたもののいちばん被害の大きかった町をはじめ復興のための工事は一切進んでいない、ということでした。仮設の市場ができ、漁業が動き始めました。ですから、壊滅的被害を受けた商店街も魚屋さんだけ営業が始まっていきます。他の店はどうなるのか？この家に住んでいた人はどこでくらしているのか？被災地を目の当たりにすると、ことばが生まれません。

2日目は瓦礫撤去の作業に（下写真）。街中の瓦礫撤去は進みま



した。しかし私有地は個人の責任です。共産党のボランティアは行政の手の届かない分野を補う形で行われています。

私たちは、広大な墓地の瓦礫撤去に。お寺からお盆前にきれいにしたと要請があつたそうです。墓石は倒れ、家財の瓦礫や近くの製紙工場のパルプ原料が一帯を覆っています。こうなると海水をかぶっているだけに悪臭もひどい。撤去作業している目の前の町は、町ごと津波にさらわれ、何もありません。埋葬されているお骨までめちやくちやになる。およそこれまでの常識では考えられなかつたことです。どうしたら一人ひとりの暮らしを守るのか：救援、そして今後の防災。

丘の上から見た石巻市（上）と倒れたビルがそのままの女川町



炎天下の「サマーフェスティバル」子どもたちは…大喜び

礪川地区のサマーフェスが7日開催。かき氷、綿あめ、昔遊びや救急訓練など、盛りだくさん。真夏日に近い気温のなかで、ほんとうにスタッフのみなさん、お疲れ様です。私も設営とポップコーンのお手伝いを、少しでしたが。

絶対高さ制限を考える懇談会

8月18日(木) 午後6時半～
 ・シビック地下1階アカデミー文京・学習室にて。ぜひご参加を！

まんだち日誌

3日 朝、白山駅で宣伝

午後この春オープンした認可保育園「こころの保育園」視察。スペースも確保され、子どもの自立性を養う視点がいたるところに見られます。社会福祉法人の思いが現われているようです。

4日 「河川改修大会」出席のため八王子まで。遠いですね。

夕方、6月オープンの認可保育園を視察。子どもの「目線」で作られた施設の工夫（怪我しないように）に感心しました。

5・6日 救援活動のため石巻に。日刊紙を午前2時から配り、4時過ぎに現地へ出発。かなりハードでした。

8日 久しぶりに家族4人で出かけました。やはりホッとしますね。